



2020年度語学検定講座報告

著者	洪 潔清, コンスタンティネスク チェザル, 大森 洋子, 李 善姫, 塩谷 祐人
雑誌名	明治学院大学教養教育センター附属研究所年報 : synthesis = The annual report of the MGU Institute for Liberal Arts
巻	2020
ページ	42-46
発行年	2021-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10723/00004127

2020年度語学検定講座報告

中国語部門：洪潔清

2020年秋学期の「中国語資格試験対策講座」は従来の講座内容をオンライン形式で実施した。以下は担当教員が提供した情報に基づいてまとめた実施報告である。

1. 実施方法について

開講された三つの講座はいずれもmanabaとZoomを併用して実施された。Zoomでは授業の進行使用し、manabaでは主に資料配布と質問を受け付けた。例としては、manabaのコンテンツに文法要点を載せたり、manabaのドリル形式を使用し過去問を提示したり、manabaのコメント機能を利用し質問を随時受け付ける方法などが挙げられる。一部の講座では、従来の対面授業で配布していたリスニングに使うキーワードリストをQuizletというツールを利用し工夫をしていた。

また、いずれの講座においても受講者の苦手分野はリスニングと見られるため、過去問の練習を通してリスニング強化に力を注いだ。例えば、受講者にはスクリプトなしとありの二つのパターンでリスニング問題を取り組ませた。両方取り組むことで生徒に音声を聞く機会を増やすとともに、スクリプトなしでは聞き取れない語句を受講者自身に認識させる効果が期待できる。

2. 受講者について

基本的に二年生以上の学生を受講対象として募集していたが、中には、中国語の歌やドラマが好き、または中国人の友達がいるなど、普段の生活に中国語と接する機会がある一年生も少なからず存在していた。彼らは講座を通して文法の問題点を解決していけば、中検4級・HSK3級をクリアすることが可能と見られる。

一方、受講者の参加意図とモチベーションは様々であり、講座参加者数は漸減した傾向が見られたものの、最終回まで継続した受講者からは肯定的な評価が得られた。

3. 今後の課題について

現行では「中国語資格試験対策講座」に中検とHSKを一括りで受講者を募集しているが、実際講座を実施する際はどちらか一方の試験対策に絞って授業を進めている。また受講者がどちらに受験を希望するかは年度によって異なる。文法事項については中検もHSKもほぼ同じであるが、リスニングの出題形式が異なる。大多数の受講者にとって難関であるリスニングの練習時間をより増やすためには、受講募集時中検とHSKを分けたほうが効率的だとの意見が寄せられている。

ドイツ語部門：コンスタンティネスク チェザル

2020年度春学期のドイツ語検定試験対策講座はコロナ禍の影響により、6月の検定試験が中止になったこともあって開催できなかった。秋学期は4級対策講座（横浜）を水曜5限に佐藤修司氏

(本学非常勤講師)の担当で、3級対策講座(白金)を火曜5限に小山田豊氏(本学非常勤講師)の担当でオンラインにより開催した(それぞれ全8回)。

4級対策講座では、当初Zoomを使用していたリアルタイム型の授業を計画していたものの、学生が参加できたのは最初の2回のみだったため、3回目以降は教材資料をmanabaにアップロードし、適宜学生が自修した上で、質問等がある場合は同じくmanabaを通して受け付けるオンデマンド式(教材提示型)の授業を実施した。

3級対策講座はオンデマンド式により次の内容で実施した。過去の出題内容をふまえた解説、自学自習に適した参考書や問題集、単語集の紹介、過去の問題3年分をmanabaにアップロードして解答、受講者にアンケートを取り、未習事項や苦手意識のある項目を確認、解説資料と練習問題を作成し、毎回の授業コンテンツとして音声付きでアップロード、まとめの自習用プリントを作って配布。なお、毎回、出席確認のかわりに単語の小テストをmanabaで実施、最終回は聞き取り問題を含む模擬試験を行ない、本番直前のまとめとした。

スペイン語部門：大森洋子

スペイン語DELE準備講座は、春学期は中止、夏休みの文法編、会話編からのスタートとなった。講師の先生との連絡をとりながら、こちらはzoomを使って行った。

1. 募集に際して

オンライン講座となったため、まず学習歴があることを条件に募集を行った。教室での講座の場合には、学生の学習状況を細かく観察できるために、意欲のある学生については学習を始めたばかりの学生も対象にしたが、今回は、1年以上の学習歴をもつ学習者に限った。応募者は、具体的に11月、または次年度の5月のDELEの試験を受けようというような意欲的な学習者が多く、DELE試験についての知名度が上がってきたことを実感した。夏休みの授業では、5日のコースであったため、また予想したよりも難易度が高かったと感じた学生が多かったようで、最後は2、3人の出席になってしまったが、それでも目的をもった学生が熱心に授業に臨んでいたという報告を受けている。

秋学期についても、オンラインで講座を行ったため、普段は横浜開講のために白金で授業を受けている学生の受講が難しかったが、今回はその問題が解消し、10名程度の学生の申し込みがあった。さらに、水曜日でいろいろなイベントもある中で、最後まで受講を続けた学生が多かった。(11月のDELE試験後も講座を持つことができたので、試験後の反省、また次回試験に向けての対策、アドバイスなどに利用された。)

2. 講座内容について

大きな問題は、教材の配布等であった。Manabaを利用して行ったが、Manabaに載せる教材が

不鮮明で学習しにくいなどの問題があった。また、講師からはオンラインであるために、学習者の手元が見えない、どこでつまづいているのかがわからない、時間配分が難しいなどの問題が報告された。一方で、Manaba (LMS) でさまざまな教材を共有することができるために、講座以外での学習も容易にできた点はよかった点で、さまざまな学校の活動のため欠席したとしても、授業の様子等が把握できそれが学習を続ける要因になったと思われる。学生が、初習外国語授業を受けるだけでなく、それを機会にもう一つDELEの試験で資格をという意欲を持たせる上では、とても有意義な講座となっていると言える。

3. 総括

春学期は、教師側も急にオンラインとなった授業に専念することを第1として、中止をしたが、秋学期はそこでのノウハウを生かして、スムーズにオンラインでの授業ができたと思われる。

今後は、教材についてもより良い利用法を考えて、春学期のオンライン講座ではそれを活かしていきたい。また、学習者のスペイン語を学ぶモチベーションの一つとしてDELE試験受験という方向があってもいいだろう。スペイン語教育、外国語教育のレベルアップのために寄与していければいいと考えている。

本講座の実施にあたっては、LMSでのコース設定、アカウント作成など教養教育センタースタッフ、教務部スタッフ、情報センタースタッフにさまざまな協力をいただいた。改めて謝意を表したい。

韓国語部門：李善姫

2020年度秋学期に韓国語の語学検定講座は、オンライン同時双方向型(Zoom)の形態で、木曜日4時限 (TOPIK II)、金曜日5時限 (TOPIK I) に実施された。

金曜日5時限のTOPIK I クラスは、参加する学生が多く、4回目の講座より2クラスに増設され、実施された。担当講師、実施期間、参加人数などは次のとおりである。

クラス	担当講師	実施曜日・時限	実施期間	参加人数
TOPIK I (A)	朴庚卿	金曜日5時限	10月2日～11月20日	7～25人
TOPIK I (B)	金南听	金曜日5時限	10月23日～11月20日	6～10人
TOPIK II	崔静仁	木曜日4時限	10月1日～11月19日	2～11人

担当講師の朴庚卿先生、金南听先生、崔静仁先生より次のようなことが伝えられた。

● 学習内容

TOPIK I クラス、TOPIK II クラス共に、過去問の「読解」「聞き取り」の問題を解きながら、質問に回答した。授業以外の時間の質問については、manabaを利用し、学生の質問に回答した。毎

回テストを行うことで、学習到達度を確認した。

TOPIK II クラスはmanabaのレポート機能を使い、「作文」の添削指導を行った。

●学生の反応と成果

学生からは、「伝統的な行事などに関する難しい文章については、写真・動画など視聴覚資料を見せてくれるので、理解が深まった」「TOPIK I のクラスが4回目からクラスが2つに分かれ少人数で勉強できたので、より効率が上がった」「TOPIKの合格という同じ目標を持つ仲間がいるので、積極的に臨むことができた」という意見があった。

全体的にオンラインで講座が実施されたことで、より参加しやすい環境になり、対面より多くの学生が意欲的に参加できたと思われる。

フランス語部門：塩谷祐人

2020年度の検定対策フランス語講座は、新型コロナウイルスの影響により春学期の開講は断念せざるを得なかった。また検定試験自体も行われなかった。

しかしながら、秋学期はオンラインで講座を開講することができた。昨年度と同様、対象は実用フランス語検定3級を受験する学生を想定し、本学非常勤講師の檜垣嗣子先生が担当して下さった。結果的には、オンラインによる開講は利点も多く、今後は仮に対面が可能になっても、オンライン講座の継続を考えてもいいのではないかと思えるものであった。

オンラインによる大きな利点は、白金キャンパスと横浜キャンパスの両方の学生が利用できることにある。予定の定員を上回る20名の学生からのエントリーがあった。ただし、実際の初回の参加人数は13名であり、その後は10名程度にとどまった。また最終回は検定試験後に行われ、ふりかえりや今後の学習について考える機会としたため、参加者は6名であった。とはいえ、一人ひとりの学生への対応を考えた場合、20名のエントリーで参加者が10名前後というのは、適切な人数であったとも思える。

内容に関しても、オンラインになったことで新たなやり方が可能になった。LMSを通じて事前に参加者に課題を配布し、金曜日の5限にZoomを使用してライブ形式でその課題の解説や添削を行った。講座後に行ったアンケートでも、内容に満足したという回答ばかりが寄せられ、今後もオンラインを活用しながら講座を開講する可能性を十分に感じる事ができるものとなっていた。対面のほうが質問しやすいという意見もあったが、同学生からは、それでもZoomで質問することができたのでありがたかったという肯定的な意見も聞くことができた。

一方、開講時期と回数には再考が必要であると思われる。今回は全5回で行い、5回目は試験後のふりかえりとしたが、参加者からの声や試験の願書提出日が講座開講より前であることを考慮すれば、もう少し開始時期を前倒しし、回数を増やすことを検討してもいいだろう。ただし、これは授業開始日などの学暦や検定試験のスケジュールによって大きく制限されるため、その中で最も適

切な時期を選ぶことが必要となる。また3級を対象としているためか、参加者が国際学科やフランス文学科に集中してしまうことやエントリーしたものの初回から不参加の学生が多くいることも、解決すべき問題であると考え。初習外国語としてフランス語を学んでいる学生を対象にするのであれば、ひとつレベルを下げた4級対策講座のクラス増設も視野に入れても良いのではないかと考えられた。

研究
所概
要

月
例
研
究
報
告

新
所
員
研
究
概
要

ラ
ン
ゲ
ー
ジ
ラ
ウ
ン
ジ
活
動
報
告

語
学
検
定
講
座
報
告

研
究
プ
ロ
ジ
ェ
ク
ト

研
究
業
績